

理科の授業振り返りシート簡易版の使い方

「理科の授業振り返りシート補助資料の使い方」は、「2(3)授業の見直しと質的改善を図るための手立て」の内容について、理科の授業振り返りシートではなく理科の授業振り返りシート簡易版を用いたときのことを説明したものです。

本研究委員会では、授業の見直しと質的改善を図るための手立てとして、授業の質的改善を図っていく1年間の流れと理科の授業振り返りシートを考えました。授業の質的改善を図っていく1年間の流れを図1に示します。

1 学 期	4 月	第一期	【計画】 ○ 自分の授業の現状を把握し、どこに目を付けて改善を進めるかを考えます。 【実践】 ○ 年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を実践します。 【評価】 ○ 年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を分析します。 【反映】 ○ 分析したことを基に、年間を通して取り組む手立てを修正・決定していきます。
	5 月		
2 学 期	6 月	第二期	【計画】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業づくりをします。 【実践】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を実践します。 【評価】 ○ 決定した年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を分析します。 【反映】 ○ 分析したことを次の授業に生かせるようにします。 ※ 第二期と第三期は、明確に分けることができません。 この時期においては、【計画】、【実践】、【評価】、【反映】を無理のない範囲で、できるだけ多く行うことが大切です。
	7 月		
	8 月		
	9 月		
	10 月		
	11 月		
3 学 期	12 月	第三期	※ 第二期と第三期は、明確に分けることができません。 この時期においては、【計画】、【実践】、【評価】、【反映】を無理のない範囲で、できるだけ多く行うことが大切です。
	1 月		
	2 月		
3 月			

※第一期～第四期の時期は、授業者によって個人差があります。
 ※第一期～第四期の考え方は、アクション・リサーチの考え方にに基づき設定しています。

図1 授業の質的改善を図っていく1年間の流れ

図 1 中の【評価】のステップにおいて、より実態に即した授業分析ができるように、分析に関わる人とその際に必要と考えられる資料について、表 1 のように整理しました。

表 1 分析に関わる人と必要と考えられる資料

分析に関わる人	必要と考えられる資料	学習ノートやワークシートの児童の記述	授業のようすを記録した録音や録画	学習指導案と授業の参観
本人（授業者）のみ		A	B	E
本人（授業者）と第三者		C	D	

※第三者は、同学年の先生、同じ学校の先生、その教科に詳しい先生、参観の先生など

A, B に対して、C, D, E は、分析に関わる人が複数に及ぶため、時間の調整などに負担がありますが、客観的な指摘や助言が得られることもあり、より質の高い授業分析にすることができます。また、本人（授業者）以外の授業を見る目を磨く機会としても有効です。A, C に対して、B, D や E は、機材、資料などの準備や時間の確保に負担がありますが、学習ノートやワークシートに児童が記述するに至った教師の指導や児童の学習活動の経緯を確認することができ、より詳細で質の高い授業分析にすることができます。

「第一期には、一度は第三者を交える」「第二期には、学習ノートやワークシートから分析する」「第三期には、一度は学習指導案を書いて、第三者に授業の参観をお願いする」というように、授業の質的改善に向けて、必要に応じて使い分けるとよいと思います。

また、授業経験の浅い先生は、第三者の分析を聞く機会を増やすことで、授業を見る目を養うことにつながります。授業経験の豊富な先生は、授業経験の浅い先生の気づきを尊重しつつ、違う角度から授業を見る示唆を与えるなどの配慮をすることが大切です。

また、理科における授業の質的改善に向けた実践の分析をするに当たり、表 2 のような理科の授業振り返りシート簡易版を作成しました。

表 2 理科の授業振り返りシート簡易版[詳しくは…]

理科授業振り返りシート補助資料① 簡易版			
1	2	3	4
主体的な学びの場を創り出す	教師は学習の場を創り出す役割を担う	深い学びの場を創り出す	深い学びの場を創り出す
目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める
学習意欲を高める	学習意欲を高める	学習意欲を高める	学習意欲を高める
知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる
理解・応用を促す	理解・応用を促す	理解・応用を促す	理解・応用を促す
批判的思考を促す	批判的思考を促す	批判的思考を促す	批判的思考を促す
深い学びを促す	深い学びを促す	深い学びを促す	深い学びを促す
学習意欲を高める	学習意欲を高める	学習意欲を高める	学習意欲を高める
目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める	目的意識・動機・意欲を高める
知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる	知識・技能を習得させる
理解・応用を促す	理解・応用を促す	理解・応用を促す	理解・応用を促す
批判的思考を促す	批判的思考を促す	批判的思考を促す	批判的思考を促す
深い学びを促す	深い学びを促す	深い学びを促す	深い学びを促す

主体的	自然の事物・現象に対する気付きから問題を見つけ出す	18
主体的	予想や仮説を設定する	5
主体的	観察・実験を構想し、計画を立案する	22
主体的	観察・実験を実施し、得た結果を整理・分析する	20
主体的	見いだした問題に対して結論を導き出す	7
主体的	学習を振り返る	主・振
対話的	自然の事物・現象に対する気付きから問題を見つけ出す	24
対話的	予想や仮説を設定する	対・予
対話的	観察・実験を構想し、計画を立案する	10
対話的	観察・実験を実施し、得た結果を整理・分析する	対・分
対話的	見いだした問題に対して結論を導き出す	対・結
対話的	学習を振り返る	対・振
深い	自然の事物・現象に対する気付きから問題を見つけ出す	主・予
深い	予想や仮説を設定する	深・予
深い	観察・実験を構想し、計画を立案する	24
深い	観察・実験を実施し、得た結果を整理・分析する	深・分
深い	見いだした問題に対して結論を導き出す	14
深い	学習を振り返る	深・振

以上を踏まえ、分析者と用意する資料、理科の授業振り返りシート簡易版を用いた授業の質的改善のための時期について、述べていきます。

ア 第一期について

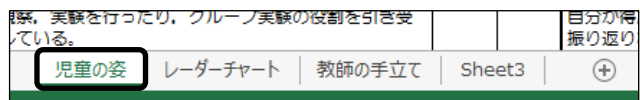
第一期の中には、【計画】【実践】【評価】【反映】の4つのステップがあります。第一期では、単に4つのステップを経て終わりということではなく、必要に応じて前のステップに戻りながらよりよいものを目指す必要があります。

【計画】

ここでは、自分の授業の現状を把握し、どこに目を付けて授業の質的改善を進めるかを考えます。

○ 自分の授業の分析

まずは、自分の授業の現状把握です。資料1の四角で囲んだ「児童の姿」のタグをクリックします。



資料1 補助資料のタグ

理科授業振り返りシート補助資料①に、以下の要領に従って入力します。

- ・資料2の四角で囲んだ欄に、自分の授業での児童の姿を振り返って、入力してください。振り返る視点は、授業場面において、児童が挙げられたようなことをしているかです。数値は1～4です。1：していない、2：あまりしていない、3：まあまあしている、4：している、に従って入力します。資料2の項目以外についても、同じように入力してください。

	主体的な学びの視点における児童の姿	1～4	1・2
自然の事物・現象に対する気付きから問題を見いだす	自然の事物・現象を、既習の内容や生活経験の中で獲得した知識を用いて解釈しようとしている。		
	自然の事物・現象を目にした際に、自分なりに解釈したことを言葉にしたり表情に出したりして表現している。		
	何をはっきりさせたいと感じているのかを自分の言葉で表現できるように考えている。		

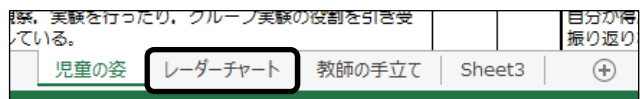
資料2 補助資料①の児童の欄

- ・資料3の四角で囲んだ欄に、自分の授業を振り返って、数値を入力してください。振り返る視点は、授業場面において、その姿が引き出せるような手立てを取り入れているかです。数値は1・2です。1：取り入っていない、2：取り入れている、に従って入力します。資料3の項目以外についても、同じように入力してください。

	主体的な学びの視点における児童の姿	1～4	1・2
自然の事物・現象に対する気付きから問題を見いだす	自然の事物・現象を、既習の内容や生活経験の中で獲得した知識を用いて解釈しようとしている。		
	自然の事物・現象を目にした際に、自分なりに解釈したことを言葉にしたり表情に出したりして表現している。		
	何をはっきりさせたいと感じているのかを自分の言葉で表現できるように考えている。		

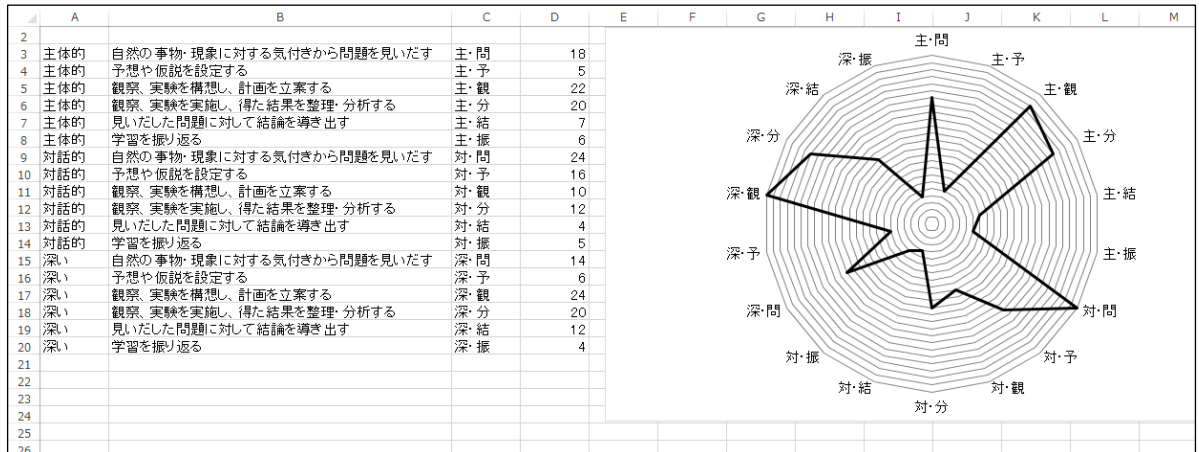
資料3 補助資料①の児童の欄

- ・資料4の四角で囲んだ「レーダーチャート」のタグをクリックします。



資料4 補助資料のタグ

- 資料 5 のようなレーダーチャートが表示されます。[詳しくは…]



資料 5 レーダーチャート

レーダーチャートの数値が高いところが、児童の姿、教師の手立てともに充実している所です。数値が低いところは、授業の質的改善をする上での目の付け所です。数値が低いところから、今回授業改善をするところを1つ選びましょう（2つ以上にすると、負担感が大きくなりますので、お勧めしません）。

- 資料 6 の四角で囲んだ「教師の手立て」のタグをクリックします。



資料 6 補助資料のタグ

- 資料 7 から、自分が選んだ授業の改善するところの手立てを検討します。このとき、必ずしも実態に応じた手立てが表示されているわけではありません。自分に適さないと思われたときには、実践事例等を参考に手立てを選択してください。市販の資料等も御活用いただくと、より自分の実態に合った手立てが選択いただけます。

主体的な学びの視点における教師の手立て	
自然の事物・現象に対する気付きから問題を見いだす	教師が実験を演示したり、自然の事象を紹介したりする事象提示を行う。
	児童が立てた学習問題を採用し、本時の学習問題とする。

資料 7 教師の手立ての例

年間を通して取り組む手立てが決まったら、【実践】のステップに進みます。

【実践】

ここでは、自分が決めた年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業を通して、その手立てで児童の力が伸ばせそうかを、実際に授業を行って確認します。次の【評価】【反映】のステップを成立させる上で、児童のどのような姿をどのように変えたいのかを見据えて、児童の姿を把握できるようにしましょう。また、分析する人と用意する資料を考え、依頼や手配を準備することも忘れないようにしましょう。授業を終えたら、【評価】のステップに進みます。

【評価】

ここでは、実際に行った授業について、次の3つで分析します。

- ① 児童に良い方向の変容が見られますか
- ② 年間を通して取り組む手立てはきちんと機能していますか
- ③ 児童が年間を通して取り組む手立てに基づいて活動しようとしていますか

ここでの分析は、いろいろな角度から授業の分析ができるように、自分以外に分析する人を立てておくことが大切です。

【反映】

分析の結果から、ここでは、次のように反映をしていきます。

分析① 児童に、良い方向の変容が見られますか。

- ・見られる → 年間を通して取り組む手立てを決定します。
→ **第二期に進みます。**
- ・見られない → **分析②** に進みます。

分析② 年間を通して取り組む手立てはきちんと機能していますか。

- ・機能している → 年間を通して取り組む手立ての見直しをしましょう。
その後、再度【実践】へ進みます。
- ・機能していない → **分析③** に進みます。

分析③ 児童が年間を通して取り組む手立てに基づいて活動していますか。

- ・活動している → 自分が授業で行っている年間を通して取り組む手立てを見直し、再検討しましょう。
その後、再度【実践】へ進みます。
- ・活動していない → 再度、自分の授業の分析をしましょう。その上で、年間を通して取り組む手立てを再検討しましょう。
その後、再度【実践】へ進みます。

以上のことを、「**第二期に進む**」となるまで行っていきます。授業の質的改善においては、この**第一期**が最も重要です。ここでしっかりと年間を通して取り組む手立てを見極めることが、改善された授業の質を決定付けるといっても過言ではありませんので、十分に時間を掛けて行いましょう。

イ 第二期・第三期について

第二期と**第三期**は、することに大きな違いはありません。しかし、その意味合いは異なります。

第二期…【計画】【実践】【評価】【反映】を重ねながら、主に、手立ての拡充を図る。

第三期…【計画】【実践】【評価】【反映】を重ねながら、主に、児童の変容をつかむ。

第二期と第三期は不可分で、この時期までは手立ての拡充を図る、この時期からは児童の変容をつかむ、と明確に区別することは難しいです。図3のように違いを意識しながら進めていくことが良いと考えています。

第二期	第三期
主に、手立ての拡充を図ることを意識	
主に、児童の変容をつかむことを意識	

図3 第二期・第三期における手立ての拡充と児童の変容把握の割合イメージ

【計画】

ここでは、年間を通して取り組む手立てを取り入れた授業づくりをします。学習内容によっては、決定した年間を通して取り組む手立てがうまくいきやすいもの、うまくいきにくいものがあります。うまくいくからする、うまくいかないからしないということではなく、うまくいかないから、うまくいくようにするための手立てを講じるようにします。授業づくりを終えたら、【実践】のステップに進みます。

【実践】

ここでは、実際に自分が構想した手立てを取り入れて授業をします。次の【評価】【反映】のステップを成立させる上で、児童のどのような姿をどのように変えたいのかを見据えて、現在の児童の姿を明確に把握できるようにしましょう。授業を終えたら、【評価】のステップに進みます。

【評価】

ここでは、実際に行った授業を分析します。「年間を通して取り組む手立てが機能したか」、「児童に良い方向の変容が見られたか」、「教師の手立ての過多がなかったのか」の3つについて分析します。授業の分析が終わったら、【反映】のステップに進みます。

【反映】

ここでは、授業の分析結果を基に、以降の授業に生かせる手立てを位置付けたり、よりよい手立てを探ったりします。また、児童の学びを自身のものにするという観点から、児童が自身の力で学習活動を進めていけるような授業にすることを考えることも大切です。

第二期・第三期は、不断の授業の質的改善そのものです。ここで【計画】【実践】【評価】【反映】のステップを多く踏めるかどうかで、改善された授業の質が決定します。

ウ 第四期について

第四期は、年間を通して行ってきた手立てを授業の質的改善として体系付ける時期です。

○ 自分の授業の分析

第四期の自分の現状把握をし、第一期の自分の現状と比較しましょう。理科の授業振り返りシート簡易版に数値を入力します。入力したら、第四期のレーダーチャートと第一期のレーダーチャートを比較しましょう。数値が伸びている点が、教師の指導法の拡充です。様々な場面に対応できる

ような授業ができるという点で、授業の質的改善が図られていると言えるでしょう。

これらの年間を通して取り組む手立てで、有効であると感じられたものについては、どの側面から見たら有効で、どの側面から見たら有効でないか、どのような学習内容、児童の実態のときに、どのような手立てが有効だったかを整理し、次年度につなげましょう。